

# 2019年度(令和元年) 連携総合ゼミ実施報告

## 1. 日程:2019年9月2日(月)~6日(金) 5日間集中講義

### 2. 実施経過

2月 26日 (火)	「新4年生オリエンテーション」連携総合ゼミの説明
3月中	各学科にて連携教育研究センター運営委員より広報
4月 8日 (月) ~ 12日 (金)	履修登録期間
4月 16日 (火) ~ 17日 (水)	履修登録内容確認期間
7月 24日 (水) 4限	「連携総合ゼミ関係教職員説明会・ファシリテータ養成講座」
8月 9日 (金) 4限	「連携総合ゼミ事前オリエンテーション」
8月 26日 (木) 2限	個別オリエンテーション (オリエンテーション欠席学生)

### 連携総合ゼミナール(5日間)

● 9月 2日(月) 2限	「オープニングオリエンテーション」 井口清太郎先生 (新潟大学大学院) ミニ講座 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">海外参加者のためのイヤホンによる同時通訳対応</span>
	3限 集中ゼミ開始
● 9月 3日(火)	ゼミ 2日目
● 9月 4日(水)	ゼミ 3日目 「コーヒーハウス (国際交流委員会合同)」 海外参加者との交流会 フィリピン 8名、台湾 6名による大学紹介プレゼンテーションが実施された 卒業生 9名が 2チームに分かれゼミ参加 (同窓会から) <u>理学2、作業2、栄養1、看護2、スポ1、社福1 計9名</u> <u>※日本歯科大学新潟短期大学卒業生も1名参加</u>
● 9月 5日(木)	ゼミ 4日目 パワーポイント資料提出 (時間内に全グループ提出完了)
● 9月 6日(金)	ゼミ 5日目 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「連携総合ゼミ発表会」午前午後</span> 事例数が 18 事例となり、PC の誤操作により時間が延長 リフレクションの時間も開始時間を遅らせたが無事実施 他大学修了証授与式 (山本学長より) 他大学の教員参加者にも修了証が送られた 評価表の回収など

### 3. 本年度の新たな試み

1)事例数 18 事例 (うち 4 事例が英語発表、英語のできる教員配置、海外学生と混成チーム)

2)新事例 6 事例

- ①事例 3 : 精神疾患を抱える家族 (多問題家族) への支援 (看護: 紅林先生)
- ②事例 5 : 産声が聞きたい～拳児希望のある不妊症夫婦への支援を考える～ (看護: 山口先生)
- ③事例 15 : 原子力災害への対応～多職種連携できることは何か～ (放射線: 関本先生)
- ④事例 16 : 災害時における避難所生活支援～私たちができること～ (放射線: 大徳先生)
- ⑤事例 17 : 視覚・聴覚に障害を持つ CHARGE 症候群の子どもの発達・学習支援 (視機能: 石井先生)
- ⑥事例 18 : 四肢不自由者の自宅生活復帰を支援する～対象者との対話を通じて～ (情報: 伊藤先生)

3)海外見学者の増加と連携説明会の開催(国際交流委員会・連携教育研究センター運営委員会合同)

- ・新たにマレーシアのサイバージャヤ医学大学 (教員 3 名)、スリランカのペラデニヤ大学 (教員 4 名)、台湾の弘光科技大学 (教員 2 名) が参加された。
- ・国際交流委員会主催 (久保委員長) で連携教育に関するミニ講座 (古西先生、佐藤晶子先生、永井先生) と海外の教員のプレゼンテーションが実施された。

4)本学入試広報課からの支援

- ・入試広報課からはゼミ風景の撮影などで HP などにもたくさん載せていただき学生への励みになった。
- ・新潟日報への掲載など

### 4. 繼続イベント

1)コーヒーハウスの開催(海外参加者との交流会)

2)同窓会から卒業生の参加(日時 9月4日水曜日 11:00～)

理学療法学科 2 名 (特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター、独協医科大学病院)

作業療法学科 2 名 (新潟県立十日町病院、新潟大学医歯学総合病院)

健康栄養学科 1 名 (埼玉医科大学病院)

看護学科 2 名 (新潟大学医歯学総合病院、黒部市民病院)

健康スポーツ学科 1 名 (JA 共済連新潟)

社会福祉学科 1 名 (つばめ福祉会特別養護老人ホームさわたりの郷)

特別参加 1 名 (日本歯科大学新潟病院 歯科衛生士)

○2 グループに分かれて、各事例グループに回っていただき、アドバイスをいただいた。

特に今回学生の参加が少なかった管理栄養士、社会福祉士の方が参加していただいたことで、貴重なアドバイスを頂けて学生からは感謝の言葉が多く聞かれた。

### 5. 今後の課題など

1)事例数が多く発表時間が短いのと、PC の誤作動により時間が延長してしまった。PC 操作担当者(学生・教員など)を専属で決めておくことや発表事例数の検討など課題となった。

2)海外参加者が増加し同時通訳 1 名では長時間で負担も多いため他の先生にもお願ひする。

3)コーヒーハウスで本学の学生による大学や新潟紹介などが積極的にできるとよい。

5. 参加総数: 205名(学生 124名、教職員 81名)

大学	学科	学生数	教職数	
新潟医療福祉大学	義肢装具	3	2	本学
	作業療法	15	0	
	理学療法	17	6	
	言語聴覚	5	4	
	社会福祉	7	6	
	健康栄養	2	3	
	看護	21	10	
	視機能	8	2	
	健スポ	4	3	
	医療情報	1	4	
	救急救命		2	
	放射線		4	
計	大学院生	4	4	
	事務局		4	
新潟薬科大学	薬学	4	1	国内
日本歯科大学短期大学	歯科衛生	8	3	
日本歯科大学	歯学	3	1	
新潟リハビリテーション大学	理学療法	5	4	
	作業療法	3	1	
計		23	10	33
アンヘレス大学	理学療法	2	1	海外 他大学
サントーマス大学	理学療法	2		
	作業療法	2	1	
	言語病理	2		
国立陽明大学	理学療法	4	1	
中山医学大学	学生	2		見学
	教員		9	
弘光科技大学	教員(PT)		2	見学
サイバージャヤ医学大学	教員		3	
ペラデニヤ大学	教員(PT)		4	
計		14	21	35
参加総数		124	81	205

\*昨年度(2018年)実績

参加総数	124	63	187
------	-----	----	-----